

平成28年度国立特別支援教育総合研究所セミナー

テーマ

インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の推進  
— 21世紀を生きる子供たちの可能性を最大限に伸ばすためには—

期 日 平成29年2月17日（金）・18日（土）  
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

National Institute of Special Needs Education



独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所

## 日程及び会場

### < 1日目 >

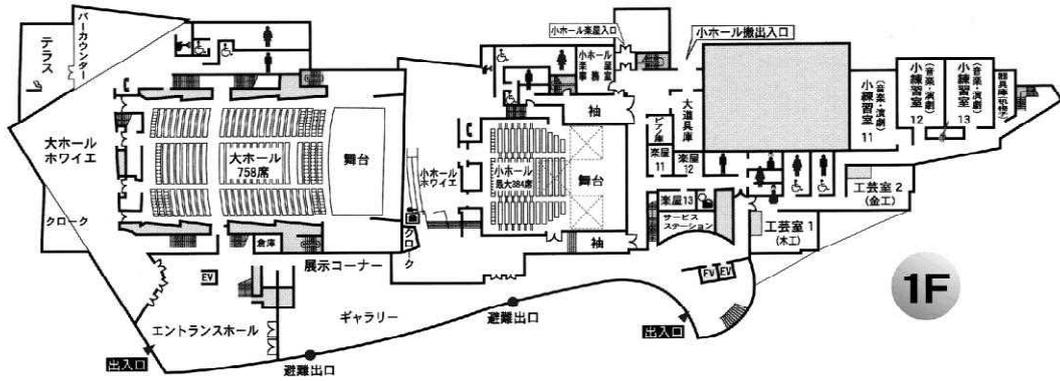
2月17日(金)	12:45 - 13:30	開会式 第30回辻村賞授賞式	カルチャー棟大ホール ※小ホールにて映像視聴可
	13:45 - 16:15	研究成果報告 第1分科会 第2分科会 第3分科会	カルチャー棟大ホール カルチャー棟小ホール センター棟102室
	16:30 - 16:45	全体会	カルチャー棟大ホール ※小ホールにて映像視聴可
	16:45 - 16:55	諸連絡	

### < 2日目 >

2月18日(土)	9:30 - 10:40	講演及び対談	カルチャー棟大ホール ※小ホールにて映像視聴可
	10:50 - 12:10	合理的配慮ミニ講座 研究所の新しい取組	
	12:10 - 13:10	休憩	
	13:10 - 14:00	ポスター発表と各種展示*	カルチャー棟大ホールホワイエ センター棟102室
	14:10 - 16:00	シンポジウム	カルチャー棟大ホール ※小ホールにて映像視聴可

\*ポスターは、第2日目9:00から掲示する予定です。

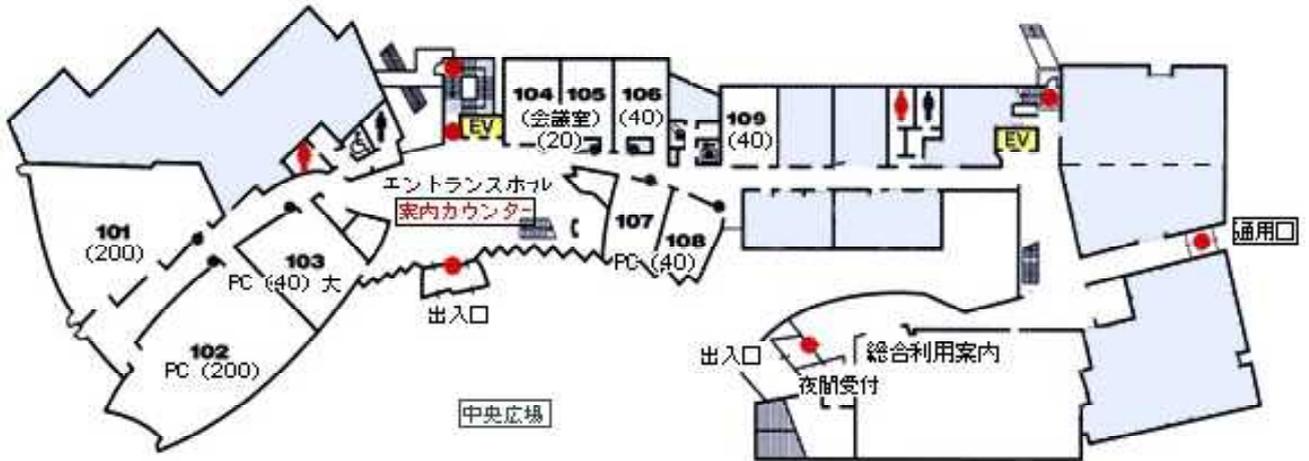
カルチャー棟構内図



センター棟構内図

1階

- 1日目13:45-16:15 研究成果報告 第3分科会 会場102室  
 2日目13:10-14:00 各種展示 会場102室





# 目 次

セミナー趣旨-----	1
1 日目	
開会式-----	2
主催者挨拶	
国立特別支援教育総合研究所 理事長 宍戸 和成	
来賓挨拶	
文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 課長 丸山 洋司 氏	
第30回辻村賞授賞式-----	3
研究成果報告（分科会）-----	4
第1分科会：アクティブ・ラーニングを通じた資質・能力の育成 －次期学習指導要領の改訂の動向を踏まえた 知的障害教育の展開－	
第2分科会：自閉症のある子供の自立活動の授業を組み立てる上での要点 －実態から子供につけたい力（目標）を考える－	
第3分科会：ことばの教室がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割 －言語障害教育の専門性を生かす取組－	
2 日目	
講演及び対談-----	8
講演題目「21世紀を生きる子供たちの可能性を最大限に伸ばすためには」 千葉大学特任教授、中央教育審議会教育課程企画特別部会主査代理 天笠 茂 氏	
合理的配慮ミニ講座-----	10
研究所の新しい取組-----	11
1. 特別支援教育の充実に繋がる学校現場に役立つ情報ツール等の紹介 理事 勝野 頼彦	
2. インクルーシブ教育システムの構築に寄与する情報ツール等の紹介 インクルーシブ教育システム推進センター長 原田 公人	
ポスター発表と各種展示の概要-----	13
シンポジウム：インクルーシブ教育システム構築におけるインクルDBの活用の意義-----	15



## セミナー趣旨

# インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の推進

－ 21世紀を生きる子供たちの可能性を最大限に伸ばすためには－

### 趣 旨

国立特別支援教育総合研究所（NISE）では、研究活動等の成果普及や質の向上、教育関係者や関係機関との情報共有を図るため、毎年、本セミナーを開催しています。

本研究所は、今年度から第4期中期目標期間（平成28年度～平成32年度）を迎えました。第4期においては、国や地方公共団体等と連携・協力しつつ、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、国の政策課題や教育現場の課題に柔軟かつ迅速に対応し、もって障害のある子供一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に貢献することを目指しています。

本セミナーは、本研究所が今まで積み重ねてきた成果を分科会やポスター発表などを通じて報告するとともに、合理的配慮ミニ講座や研究所の新しい取組の紹介を行うなど、特別支援学校、特別支援学級だけでなく、通常の学級の先生方にも興味をもっていただける内容としています。また、講演及び対談やシンポジウムは学習指導要領等の改訂やインクルーシブ教育システムの構築を見据え、今後の学校教育を考える上で意義深いものとなるよう企画しました。

本セミナーが、参加された皆様にとって、特別支援教育の推進のための実り多い機会となることを期待しております。

理事長 宍戸 和成

1 日 目

開会式
-----

1. 主催者挨拶

宍戸 和成（国立特別支援教育総合研究所理事長）

2. 来賓挨拶

丸山 洋司 氏（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 課長）

## 第30回辻村賞授賞式

### (趣 旨)

辻村賞は、国立特殊教育総合研究所(現 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)の初代所長であり、我が国の特別支援教育の第一人者として、その振興・発展のために尽力された故辻村泰男氏の御遺徳を永く記念するとともに、特別支援教育の領域において、特に顕著な功績のあった者や、特に優秀な研究を行い特別支援教育の向上に著しく寄与した者を顕彰し、特別支援教育の振興に資するため、創設されました。

第1回の受賞が1980年に行われて以来、今年度は節目となる第30回の記念すべき授賞式にあたります。また、社会的にも、障害者差別解消法が本年度から施行され、すべての国民が障害の有無に分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向けて、関係者の一層の努力が求められています。

そこで、今年度は今後の共生社会の実現に向け、先導的にインクルーシブ教育システム構築に尽力した実績が評価される個人と団体を選考し、個人では筑波大学名誉教授齋藤佐和氏、団体では全国特別支援教育推進連盟様を表彰します。

### (受賞者プロフィール)

齋藤 佐和氏

東京大学教育学部卒業、仏国パリ第5大学学術博士取得。国立大学法人筑波大学名誉教授。専門は聴覚障害教育。長年にわたり、聴覚障害教育に尽力し、特に欧米の言語学や発達心理学等の知見を、我が国の聴覚障害教育に融合させ、「生活言語から学習言語への移行を踏まえた言語指導」という考え方を提唱し、発達の各段階における「対話(話し合い活動)による自然法(ナチュラルアプローチ)」が聴覚障害児の読み書きなどの課題解決を図る重要な言語指導法であることを、我が国で初めて実践的に実証しました。また、中央教育審議会において数々の委員を務めたり、著書を多数出版され、我が国の特別支援教育に多大な貢献をされてきました。平成19年「アジア太平洋障害者の十年(2003-2012)中間年 内閣総理大臣表彰」受賞。

全国特別支援教育推進連盟 様

昭和39年全国特殊教育推進連盟として発足し、平成15年全国特別支援教育推進連盟に改称し、これまで50年以上にわたり、特別支援教育の推進に向けて尽力しています。同連盟は校長会、各障害種PTA連合会、障害者団体等の21団体で構成され、特別支援教育に関する関係者からの幅広い意見のとりまとめの中核としての役割を担っており、文部科学省や厚生労働省と密接な連携を取りながら、我が国の特別支援教育の推進に寄与してきました。

また、全国の障害者団体や都道府県の窓口として障害者の理解啓発に向けた全国特別支援教育振興協議会等の開催、特別支援教育に関する書籍の出版、特別支援教育コーディネータ研修の実施等、我が国の特別支援教育の推進・発展に向けた努力を精力的に続けています。

## 研究成果報告（分科会）

### <趣旨>

本研究所が取り組んでいる基幹研究（横断的研究・障害種別研究）の中から、平成 27 年度に終了した 1 つの研究課題と平成 28 年度末に研究期間の終了を迎える 2 つの研究課題を取り上げ、研究成果を分科会形式で報告します。

### 第 1 分科会

アクティブ・ラーニングを通じた資質・能力の育成  
— 次期学習指導要領の改訂の動向を踏まえた知的障害教育の展開 —

### 第 2 分科会

自閉症のある子供の自立活動の授業を組み立てる上での要点  
— 実態から子供につけたい力（目標）を考える —

### 第 3 分科会

ことばの教室がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割  
— 言語障害教育の専門性を生かす取組 —

## 第1分科会

### アクティブ・ラーニングを通じた資質・能力の育成 —次期学習指導要領の改訂の動向を踏まえた知的障害教育の展開—

#### <概要>

平成27～28年度に実施した基幹研究「知的障害教育における『育成すべき資質・能力』を踏まえた教育課程の在り方—アクティブ・ラーニングを活用した各教科の目標・内容・方法・学習評価の一体化—」を通じて得られた知見と研究協力機関での実践を報告します。

本研究では、知的障害教育において育成すべき資質・能力やアクティブ・ラーニングの具体的な在り方について検討するとともに、学習評価を含めて学校経営の中で一体的な展開を図るカリキュラム・マネジメントの在り方について検討してきました。

本分科会では、研究報告と実践事例の発表を通して協議を行い、次期学習指導要領の改訂とも関わる知的障害教育におけるアクティブ・ラーニングを通じた資質・能力の育成の在り方について、シンポジスト及び会場の皆様とともに探っていきたいと思います。

#### <プログラム>

##### 1. 研究報告と話題提供 14:10～15:25

司会進行	武富 博文 (国立特別支援教育総合研究所)
研究趣旨説明	明官 茂 (国立特別支援教育総合研究所)
研究報告	涌井 恵 (国立特別支援教育総合研究所)
実践報告1	上仮屋 祐介 氏 (鹿児島大学教育学部附属特別支援学校)
実践報告2	加藤 公史 氏 (愛媛大学教育学部附属特別支援学校)
実践報告3	浅利 邦子 氏 (千葉県立特別支援学校流山高等学園)

#### 休憩 (10分)

##### 2. 協議 15:40～16:40

フロアと報告者による意見交換	
指定討論	丹野 哲也 氏 (文部科学省初等中等教育局)
協議	
まとめ	明官 茂 (国立特別支援教育総合研究所)

## 第2分科会

### 自閉症のある子供の自立活動の授業を組み立てる上での要点 －実態から子供につけたい力（目標）を考える－

#### <概要>

本分科会では、平成26～27年度に実施した「特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の自立活動の指導に関する研究」の研究成果について報告します。本研究では、自閉症・情緒障害特別支援学級と知的障害特別支援学級に対してアンケート調査を実施し、自立活動の指導の現状と課題について明らかにしました。また、アンケート調査の結果や研究協力機関での実践を踏まえて、自閉症のある子供の自立活動の授業を組み立てる上での要点をまとめ、特別支援学級において自立活動を時間に位置づけて指導することの意義を考察しました。

本分科会では、本研究成果の報告と研究協力機関2校の実践報告を通して、特別支援学級に在籍する自閉症のある子供への自立活動の時間における指導の意義や進め方について、フロアの皆様と協議します。

#### <プログラム>

前半 14:10～15:00

司会：村井 敬太郎（国立特別支援教育総合研究所）

1. 趣旨説明

柳澤 亜希子（国立特別支援教育総合研究所）

2. 研究報告1「特別支援学級における自立活動の指導の現状と課題－アンケート調査から－」

西村 崇宏（国立特別支援教育総合研究所）

3. 研究報告2「自閉症のある子供の自立活動の授業を組み立てる上での要点」

柳澤 亜希子（国立特別支援教育総合研究所）

休憩（15分）15:00～15:15

後半 15:15～16:40

4. 実践報告1「小学校自閉症・情緒障害特別支援学級での実践」

金子 道子 氏（千葉県我孫子市立我孫子第二小学校）

5. 実践報告2「中学校自閉症・情緒障害特別支援学級での実践」

荒谷 美巳 氏（広島県安芸郡坂町立坂中学校）

6. 指定討論

野呂 文行 氏（筑波大学）

7. 全体協議（質疑応答を含む。）

8. まとめ

### 第3分科会

#### ことばの教室がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割 —言語障害教育の専門性を生かす取組—

##### <概要>

本分科会では、平成27～28年度に実施した「ことばの教室がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割」について報告を行います。この研究では、①言語障害教育の専門性の維持・継承についての取組を明らかにすること、②学校・地域におけることばの教室の活動を明らかにすること、を目的としました。①では、各都道府県の事務局調査、意見交換会、研究協力機関等の取組から研修会の持ち方の工夫や専門性の継承に関する取組が明らかになりました。②では、ことばの教室が設置されている地域の状況（他の障害の通級教室の設置や関係機関の設置など）によって、果たしている役割の違いが明らかになりました。

これらの研究結果から、ことばの教室の担当者が必要と考えている専門性とことばの教室が果たしている役割とは深く関わりがあることが推測されました。インクルーシブ教育システム構築に向け、ことばの教室の専門性と地域との関係の中での活動について、研究協力機関の関係者やフロアの皆様とともに協議したいと考えています。

##### <プログラム>

前半 13:45～14:50

司 会 久保山 茂樹（国立特別支援教育総合研究所）

研究報告1 「研究の趣旨及び調査報告」

牧野 泰美（国立特別支援教育総合研究所）

実践報告1 「北海道におけることばの教室の専門性維持向上の取組」

三坂 烈慎 氏（札幌市立青葉小学校）

実践報告2 「生駒市におけることばの教室の地域連携と支援の取組」

高橋 順治 氏（奈良県生駒市立生駒小学校）

休憩（15分）14:50～15:05

後半 15:05～16:15

研究報告2 「ことばの教室における専門性と地域での役割」

小林 倫代（国立特別支援教育総合研究所）

話題提供 「多様な学びの場の一つであることばの教室の方向性」

庄司 美千代 氏（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）

協議

まとめ

2 日目

**講演及び対談**  
**「21 世紀を生きる子供たちの可能性を最大限に伸ばすためには」**

**<趣旨>**

中央教育審議会教育課程企画特別部会主査代理をされている天笠 茂氏より、「育成を目指す資質・能力」や次期学習指導要領改訂等について、教育全体の動向と今後の方向性について論じていただきます。また、対談では、次期学習指導要領改訂における押さえておくべきポイントや、新しい動向をどのように特別支援教育の現場に反映させていくかについて考えます。

9:30～10:40

講 師 天笠 茂 氏

（千葉大学特任教授、中央教育審議会教育課程企画特別部会主査代理）

対談者 宍戸 和成（国立特別支援教育総合研究所 理事長）

司 会 明官 茂（国立特別支援教育総合研究所）

<講演>

21世紀を生きる子供たちの可能性を最大限に伸ばすためには

天笠 茂 氏

(千葉大学特任教授、中央教育審議会教育課程企画特別部会主査代理)

## 合理的配慮ミニ講座

インクルーシブ教育システムにおいては、本人及び保護者と学校や教員の間で適切な指導と必要な支援について合意形成が図られ、関係者の共通理解のもと、障害の状態や教育的ニーズに応じて基礎的な環境が整備され、適切な合理的配慮が提供されることが望まれます。平成28年4月から障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律も施行され、公立学校等においても、障害のある人に対する「不当な差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の提供」が義務付けられました。

本セッションでは、合理的配慮ミニ講座として、合理的配慮や基礎的環境整備の基本的な考え方について説明します。学校における合理的配慮の提供について、特に通常の学級における合理的配慮と基礎的環境整備を中心に、写真などを使いながら具体的に解説します。障害のある子供の障害の状態や教育的ニーズは、障害種別やライフステージ、基礎的環境整備の状況によっても変わってきます。一人一人の障害の状態や教育的ニーズを把握し、それに応じた合理的配慮の提供について検討する必要があります。

今回は、①幼稚園・保育所等における合理的配慮、②小学校における合理的配慮、③中学校における合理的配慮、④高等学校における合理的配慮を事例として取り上げます。合理的配慮等の提供について、各年齢段階で押さえておきたいこと、通常の学級の中での個別の支援方法や教材の工夫、学級全体の基礎的な環境整備などについて解説します。

併せて当研究所の「インクルーシブ教育システム構築支援データベース」（インクルD B）に掲載している実践事例データベースもぜひご活用いただければと思います。

10:50～11:45

司会 笹森 洋樹（国立特別支援教育総合研究所）

### ① 幼稚園・保育所等における合理的配慮

久保山 茂樹（国立特別支援教育総合研究所）

### ② 小学校における合理的配慮

齊藤 由美子（国立特別支援教育総合研究所）

### ③ 中学校における合理的配慮

田中 良広（国立特別支援教育総合研究所）

### ④ 高等学校における合理的配慮

江田 良市（国立特別支援教育総合研究所）

## 研究所の新しい取組 —情報発信の充実とインクルーシブ教育システム構築への寄与—

### <概要>

現在、これからのインクルーシブ教育システムの構築に向けて、学校現場や教員の資質向上に資する様々な情報提供の充実等、新しい取組が求められています。

本セッション前半では、本研究所の取組のうち、学校現場で活用しやすいウェブコンテンツ等を中心に、研究成果の還元、研修事業や免許法認定通信教育等を含む教員の専門性向上のための支援、学校現場での教育活動への支援、の3つの視点から、学校現場に役立つ情報ツール等、情報発信の充実に向けた取組を紹介します。

また、本研究所は今年度よりインクルーシブ教育システム推進センターを立ち上げました。このセンターの目的は地域や学校現場におけるインクルーシブ教育システムの構築を強力に支援することです。インクルーシブ教育システムの構築に向け、本研究所が新たに試みる「地域実践研究」等をセッション後半にご紹介します。

### 1. 特別支援教育の充実に繋がる学校現場に役立つ情報ツール等の紹介

勝野 頼彦 (国立特別支援教育総合研究所)

- (1) 研究成果の還元(研究成果サマリー集・リーフレット等)
- (2) 教員の専門性向上のための支援(研修事業、講義配信、免許法認定通信教育)
- (3) 教育活動への支援(発達障害教育情報センター、支援教材ポータルサイト)

## 2. インクルーシブ教育システムの構築に寄与する情報ツール等の紹介

原田 公人 (国立特別支援教育総合研究所)

### (1) 地域実践研究

平成 28 年度より、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、地域や学校が抱える課題を研究テーマとして設定し、本研究所と地域が協働して行う、新しいタイプの研究として「地域実践研究事業」を実施しています。インクルーシブ教育システム構築に関するメインテーマ 2 課題のもとに、サブテーマ 8 課題を掲げ、各研究テーマに即して当該の研究グループと共に、研究活動を行っています。平成 29 年度からは、既存の「長期派遣型」に加えて、新たに「短期派遣型」を設け、都道府県等の多様なニーズに対応することとしています。

### (2) インクルDB

インクルーシブ教育システムの構築に向けて、都道府県・市町村・学校が直面する課題の解決に資する情報発信・相談支援の充実を図るために、合理的配慮や基礎的環境整備の事例を蓄積したインクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）をホームページに掲載しています。また、閲覧者の利便性向上のため、分かりやすさや見やすさを考慮して情報量の軽減化を図り、適宜、用語の解説を加え、地域や学校が直面する課題の解決に資する情報発信を行います。

## ポスター発表と各種展示の概要

### <趣旨>

本研究所の平成 27 年度終了研究課題（専門研究 A・B）等の成果を、ポスター展示及び参加者との質疑応答により行います。

また、障害別教育分野のうち、自閉症教育、重複障害教育、発達障害・情緒障害教育の各分野の基本情報及び研究や実践におけるトピックに関するコーナーを設けて、パネル・資料・教材等の展示により紹介するとともに、直接、本研究所の担当者が説明します。

発達障害教育情報センター、支援機器等教材展示では、教育的支援に活用されている教材教具や ICT 機器や支援機器の展示コーナーを設け、直接、本研究所の担当者が説明します。

### ポスター発表

専門 研究 A	1	【推進班】今後の特別支援教育の進展に資する特別支援学校及び特別支援学級における教育課程に関する実際研究
	2	【ICT・AT 班】障害のある児童生徒のための ICT 活用に関する総合的な研究
	3	【在り方班】インクルーシブ教育システム構築のための体制づくりに関する研究－体制づくりのガイドライン（試作）の作成－
専門 研究 B	4	【視覚班】視覚障害のある児童生徒のための教科書デジタルデータの活用及びデジタル教科書の在り方に関する研究
	5	【聴覚班】聴覚障害教育における教科指導及び自立活動の充実に関する実際研究
	6	【肢体不自由班】小・中学校に在籍する肢体不自由児の指導のための特別支援学校のセンター的機能の活用に関する研究
	7	【病弱班】病弱・身体虚弱教育における教育的ニーズとそれに応じた教育的配慮に関する研究
	8	【自閉班】特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の自立活動の指導に関する研究
	9	【発達・情緒班】発達障害のある子供の指導の場・支援の実態と今後の在り方に関する研究
共同 研究	10	視覚障害のある児童生徒のための校内触知案内図の作成と評価
	11	特別支援教育における支援機器活用ネットワーク構築に関する研究－高等専門学校との連携による支援ネットワークの構築－
	12	小児がん患者の治療、教育、福祉の総合的な支援に関する研究

## 障害別教育分野

### (1) 自閉症教育

自閉症班では、平成 26～27 年度に実施した「特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の自立活動の指導に関する研究」の成果をまとめたパネルやリーフレット、アンケート調査報告書を展示しています。また、知的障害を伴う自閉症のある幼児児童が在籍する筑波大学附属久里浜特別支援学校と共同で作成した「自閉症のある子供の理解と支援 Q & A 集」も展示しています。

### (2) 重複障害教育

重複班では、複数の障害を併せ有していたり、障害の程度が重度であったりするために、自立と社会参加に手厚い支援を必要としている子供の教育に関する研究を進めています。以下の 3 つのパネルを展示し、パンフレット等を配布します。

- ① 重度・重複障害のある子供の実態把握・教育目標・内容の設定、及び評価等に資する情報パッケージの開発研究（情報パッケージ「ぱれっと」の紹介）
- ② 視覚と聴覚の両方に障害のある「盲ろう」の子供たちの教育
- ③ 特別支援学校の医療的ケアに関する実態調査

### (3) 発達障害・情緒障害教育

発達・情緒班では、発達障害のある子供たちが、できるだけ早期から「必要な支援と適切な指導」を継続して受けることができ、持てる力を発揮し、自己肯定感をもつことができるよう研究を進めてきました。以下のパネルを展示しております。

- ① 発達障害と情緒障害の関連と教育的支援に関する研究—二次障害の予防的対応を考えるために—
- ② 発達障害のある子供への学校教育における支援の在り方に関する実際的研究—幼児教育から後期中等教育への支援の連続性—
- ③ 高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への指導・支援に関する研究—授業を中心とした指導・支援の在り方—

## 各種展示

### 発達障害教育情報センター

発達障害教育情報センターでは、発達障害のある子供の教育の推進・充実に向けて、教員及び保護者をはじめとする関係者、さらに広く国民の理解を得るために情報提供や理解啓発を行なっています。本セミナーでは、①発達障害のある子供の困難さの疑似体験、②学校で役立つ教材・教具や関連書籍の展示・紹介、③センターWEB で公開している「研修講義」の上映・解説等を行います。

### 支援機器等教材展示

支援機器等教材展示では、支援機器等教材に直接触れて体験していただくことや、研究員による説明を行います。また、文部科学省「支援機器等教材を活用した指導方法充実事業（平成 26 年度～平成 27 年度）」の実施団体（教育委員会、学校、大学等）より、障害のある子どもに対して支援機器等教材を活用した指導方法について実践紹介を行います。

## シンポジウム インクルーシブ教育システム構築におけるインクルDBの活用の意義

### <概要>

我が国では、平成26年に障害者の権利に関する条約の批准、そして平成28年4月より障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律が施行されています。学校教育においても、障害のある幼児児童生徒に合理的配慮を確保していくことが急務の課題となっています。合理的配慮は、多様かつ個別性の高いもので、各学校の基礎的環境整備を踏まえて、どのように学校教育で対応していくのか、その方法が求められています。

本研究所のインクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）は、平成25年から平成27年度にかけて行われた、文部科学省のインクルーシブ教育システム構築モデル事業における事例報告をもとに作成されており、データベースには、毎月約2～3万のアクセスがあります。

平成27年度の実践事例は特に「合意形成」のプロセスが記載されており、内容の充実が図られています。今後のインクルーシブ教育システム構築支援をどのように進めていくか探っていきます。

### <プログラム>

司会 藤本 裕人（国立特別支援教育総合研究所）

#### 1. 前半 14:10～15:15

趣旨説明 藤本 裕人（国立特別支援教育総合研究所）

報告1 インクルDBの掲載事例から読み取れる現状  
横尾 俊（国立特別支援教育総合研究所）

報告2 地域や学校におけるインクルーシブ教育システムの構築  
—インクルDBを活用した、合理的配慮等の検討—  
藤井 里織 氏（宮崎市立宮崎小学校）

報告3 教育委員会主催の研修会等におけるインクルDBの周知及び活用促進  
仙北谷 逸生 氏（北海道教育委員会）

協議 （会場意見等）

#### 2. 後半 15:15～16:00

指定討論 共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進におけるインクルDBの活用  
柘植 雅義 氏（筑波大学）

指定討論 我が国におけるインクルーシブ教育システム構築とインクルDB  
青木 隆一 氏（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）

協議 （パネリスト意見等）

まとめ



---

## 平成28年度国立特別支援教育総合研究所セミナー要項

---

発行者 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
平成29年2月発行  
〒239-8585  
神奈川県横須賀市野比5丁目1番1号  
電話 046-839-6803  
FAX 046-839-6919（総務企画課）  
URL <http://www.nise.go.jp/>

---